



第118号 (季刊)
平成28年4月
田中野田町内会

<http://townweb.e-okayamacity.jp/tanakanoda/>



避難所体験に参加して



町内会長 和気 茂

地球温暖化の影響か、この冬は総じて暖かい日が多

かったような気がします。入学試験と合格発表、卒業式の知らせ、入社式などの動き。又、桜の開花によって夢と希望の新年度が始まります。

町内会でも例年の役員の改選があり、任期を終えられお世話になった役員の皆様にあらためてお礼を申し上げます。また、新役員さんにはよろしくお願いいたします。

※ さて、東日本大震災の発生から5年。まだ17万4千人の方が避難を余儀なくされている。一日でも早い復興を願うものです。

昨年11月、岡山西支援学校での「地域との合同避難所体験」に参加させていただきました。

避難所の想定条件は下記のようなことでした。

1、被害の想定

- ① 和歌山県沖で、震度5の巨大地震が発生し、津波の心配なし。冬休みで児童生徒はいない。職員は出勤。御南・西学区周辺は、倒壊家屋かなりあり。液状化現象が見られるが、車はなんとか走れる。支援学校内は使用可能であるが、ガラスが散乱し、物が倒れている。児童、生徒、近隣の住民の方々が自主避難してきている。

- ② 電気、水道使用不能



2、目的

- ①避難所運営の訓練（それぞれの役割を確認）
②避難者の体験（避難所での不自由さの体験や非常食、防災グッズを体験）

③余震時の身を守る訓練

3、参加者

運営者100名（職員・保護者・町内会・旭川荘）

避難者100名（児童・保護者・地域住民・御南中学生ボランティアなど）

参加にあたり、突発的な災害により、周囲は混乱している状況で、避難場所内において学校教職員、地域及び関係運営者らが中心になって対処していくものであるが、私自身は何に気を配り、どのように行動すればよいのか、避難所体験とは云え、いささか緊張を覚えるものでありました。対策本部長には岡山西支援学校長になっていただき、受付班・連絡広報班・保健安全班・施設班・食料物資班等が設けられた。実践では、避難者として、お年寄り・乳幼児の親子・ペットと同伴の人・体調の悪い人達が続々と一度に避難して来られた。受付後、担当が所定の場所に誘導するがなかなかスムーズにいかない。反省点として、連絡、誘導、案内の掲示、健康でない方の誘導等多くの問題点が出され、次回に活かして行こうと云うことで体験は終了しました。

※この地域での「災害は起きないだろう」という過信はありませんか？皆さんも次回の避難所体験に参加してみられてはどうでしょうか。（岡山西支援学校は、御南学区の避難場所の1つに指定されています。）

